



今、思うこと

教育長職務代理者
橋本 捷一郎

人口減少、人工知能（AI）などが進展する時代の人生百年を生きる子どもたちの未来が気になります。

さて、学校は勉強や規律・秩序などを教わる学び舎ですが、平成十年頃から「いじめ」「不登校」が深刻化しました。このことから個々の子どもたちの理解とその良さを発揮できるよう、より一層の指導を心掛けるよう求められました。

ところで、集団生活の学校は公平・平等な場であること、そして、子どもたち一人一人の個性を大切にすること、この二つの公的と私的な視点のはざ間で先生を悩ませたのではないのでしょうか。ここに先生方の多忙と苦勞の一因があるのではないかと思います。

変化する社会の中、学校、保護者、地域の人々が三者によるチームとして、それぞれの役割を發揮しながら、子どもたちの幸せのために互いに協力し努力したいと思います。



“いい脳”を育む

教育委員
志水 矛

新天皇・新札発表と時代は大きく変化しています。新しい職業やスポーツが次々と生まれ、価値観の多様性とまどうことさえあるこの頃です。今の子どもたちは、この時代を生き抜く力を身に備えておかなければなりません。

最近の脳科学の研究で、脳は年齢により発達段階があり、それぞれの段階でアプローチを変えると“いい脳”に育つと言われています。ここでいう“いい脳”とは、人間性も豊かで、つらいこと苦しいことがあっても乗り越えて、価値観が変化しても生き抜く力があるという事です。育脳に大切なのは、挨拶・早寝早起きの習慣・朝ご飯・運動・気持ちのこもった対話（目を見て話せる場）・決まり事を守る、といった基本的な生活環境を整えることだそうです。幼少期が最も大切なのですが、脳はいくつになっても鍛えることができるので手遅れということもないそうです。

子どもたちの“いい脳”を社会全体で育てていきたいものです。



「言葉のキャッチボールを！」

教育委員
池坂 めぐみ

「おはよう！」一日の始まりの挨拶です。眠たい目をあけて起きてきた子どもの声のトーンからその日の調子や機嫌を読み取ります。明るく元気な「おはよう！」の声が返ってくると、今日も一日頑張ろう。と力をもらえます。朝の慌ただしい時間の中でもそこから会話が広がり、「いつてきまーす！」「いつてらっしゃーい！」と朝のお見送り。我が家の日常です。

子どもが成長してくると、親子の会話は減りがちです。子どもは成長とともに住む世界が広がり、だんだんと親の手を離れ、共に過ごす時間が少なくなっていくます。

しかし、たとえ短時間になっても会話、言葉のキャッチボールはできます。会話を重ねることで、小さな子どもは言葉を覚え、自分の気持ちを表現できるようになり、話を聞く力をつけていくと私は思います。

もちろん、うまくキャッチボールができない時もあります。しかしそんな時こそ、距離を置いたり、時間をかけたりしながらでもキャッチボールを続けていきたいものです。



子どもとの出会い

教育委員
木曾 文人

毎年、入学、卒業、人事異動で、子どもと教職員は、出会いと別れを繰り返しています。本年度も新しい出会いによってスタートし、新たな気持ちで元気に活動している子どもたちの光景が、目に浮かぶ様です。

ところで、「人の一生は出会いを通して、心を養い、考えを深め、生き方を探る」といわれています。そう考えると、教育は、最終的には人と人との出会いにつけるのではないかと思います。

特に、教師と子どもとの良い出会いが大事です。どの子も、先生から声をかけてもらいたい、自分を認めてもらいたいと思っています。

子どもと向き合った時に、子どもの良い部分を見つけて、それを子どもにきちんと伝えてほしいですね。先生の暖かい眼差しや、その子どもに共感する一言が、子どもの心の中に、希望や思いやりなどの気持ちをいっぱい生み出していくのではないのでしょうか。

一年をふりかえった時、教師と子ども、保護者が、お互いにより出会いであったといえるようでありたいものです。

すくすく のびのび いきいき



急激な社会変動と教育

教育長 尾上 慶昌

これからの教育には、近い将来の社会状況の変化に対応できる環境を整えることが求められています。最近では、ニューヨーク市立大学のキャシー・デビットソン教授が「今の子どもたちの65%は今存在していない職業に就く」という予想を出したと言われています。この65%という数字は、後日、デビットソン教授が「65%という数字は使っていない」と否定していますが、大学の世界ランキングでトップと言われるオックスフォード大学のマイケル・オズボーン氏の「47%の仕事が自動化される」という有名な予想に信憑性を持たせることとなり、今後の教育を考察するうえでの重要な視点となっています。

私たちの生きてきた過去を振り返ってみても、携帯電話やパソコンがスマートフォンへと進化したり、ネットでのショッピングが日常化してきたりと急激な社会変動の事例には事欠きません。自動車の自動運転や買い物の無人化、スマートフォンによる電子マネーの使用や家電の操作、ドローンによる物資の搬送、翻訳機や介護ロボット等々、既に現実化してきた技術も多く存在します。雇用する側からすれば、人手不足や人件費の節約もあって、こういった技術が一定のレベルに達すれば、当然積極的に導入することになると予想され、人間の役割や雇用形態が変化していくことは自然のなりゆきであるという見方もできます。

今、学校園所では、少子高齢化が進むとともに、社会が大きく変化していく時代に生きていく子供たちにとって必要な教育への移行と指導体制づくりが進んでいます。

そのひとつに子供の教育に専念できる教職員の業務改善が国や県の方針としてあげられています。

教職員の業務の本質は、学習活動や教育内容の質的・量的充実であり、日々の授業に集中できる環境を整えることが不可欠であります。特に新しい学習

指導要領で求められている、これからの時代を生きていく子供たちにとって不可欠とされる、夢を育むキャリア教育やプログラミング教育をはじめ、道徳教育やアクティブラーニング、小学校での外国語活動への対応や幼小の連携教育は急務といえます。しかし、現実的には、いじめや問題行動への対応、不登校への支援、通学路・熱中症等への対応や日々の安全確保、地域活動への参加、さらに激化する保護者の要望や苦情への対応に追われるなど、まさに多岐にわたっています。マスコミでは、教職員が過労死ラインを越える仕事をしていると報道されているところ。教育委員会の学校教育担当の教職員についても、僅かな人員で学校現場以上の多忙を極めて

そこで、子供たちによりよい教育を提供し、多岐化する学校を地域で支援し、連携を深めるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入は不可欠となります。赤穂市では県内でも先駆けてコミュニティ・スクールに取り組んできました。この度、赤穂西小学校が赤穂市を代表して文部科学大臣表彰を受ける栄誉をいただきましたが、赤穂市の取組が全国的にも高い評価をいただいた成果であります。今後は、子供たちのために地域との連携を深め、市内のすべての小中学校でコミュニティ・スクールを順次導入をしてまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和元年度赤穂教育プラン

次ページの「赤穂教育プラン」は、平成23年度に策定し、平成27年度に見直しを行った赤穂市教育振興基本計画の施策を実施するために今年度行う取組です。

教育プランは施策や事業の内容をより具体化し、相互の関連とつながりを視覚的に表現したもので、市内の教育機関に掲示し、教育の目標としています。



[赤穂市子育てスローガン]

すくすく（乳児期）

のびのび（幼児期）

いきいき（少年期）

基本理念

“あすの赤穂”をになう
こころ豊かな人づくり
～夢を育む教育をめざして～

キャリア教育
の推進

郷土の自然・歴史・文化に学び、生涯にわたり夢を育むことができる教育、人づくりを推進する。「生きる力」を育成するための教育環境の整備を進めるとともに、そのためには、「生きる力」を発揮できる夢のある生涯学習社会をめざす。個性や能力を

生涯学習
の推進

保育所
幼稚園

小学校
中学校

生涯学習

《学校園所教育の充実》

【小学校・中学校】

- (1) 「確かな学力」を育成するため「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の創造
(2) 地域とともにある「コミュニティ・スクール」の促進
(3) 「豊かな心」を育む道徳教育・人権教育の充実
(4) 一人一人の多様な教育ニーズに応じた、きめ細やかな特別支援教育の充実
(5) いじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を図る児童生徒理解に基づく生徒指導の充実
(6) 適切に判断し、命を守り抜く力を育成する安全・防災教育の充実
(7) 校種間の連携による円滑な接続と系統性を重視した指導の充実
(8) 「健やかな体」の育成をめざし、健康教育の充実と体力・運動能力の向上
(9) グローバル化に対応した国際理解・外国語・伝統文化に関する教育の推進
(10) 学校業務改善・教職員の勤務時間適正化の推進による児童生徒と向き合う時間の確保

【幼稚園・保育所】

- (1) 生きる力の基礎を育むための主体的・意欲的に活動する保育内容の創造
(2) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化と小学校との連携教育の推進
(3) 幼稚園教育要領・保育所保育指針の研修と教職員の資質能力向上
(4) 「豊かな心」を育む人権教育の充実と関係機関との連携強化
(5) 一人一人の発達に応じた特別支援教育の充実と関係機関との連携強化
(6) 子育てに関する情報の発信や子育て相談等、地域とともにある保育の実施
(7) 家庭と連携した基本的生活習慣の確立
(8) 3歳児保育等試行実施の検証と更なる充実に向けた研修の実施
(9) 保育士、幼稚園教諭の人材確保に向けた取組の実施
(10) 幼児教育無償化に向けた取組の実施
(11) 子育て家庭の経済的負担軽減のため、3歳以上の第3子以降に給食費を補助

《給食事業の充実と適正運営》

- (1) 安全な作業環境整備及び衛生管理強化のために、給食センター施設整備工事等を実施
(2) 給食施設設備の日常点検と薬剤師による定期点検の実施
(3) 食中毒及び異物混入防止対策として飛翔昆虫対策等を実施し、安全衛生管理を徹底
(4) 地産地消の推進として赤穂産デュー・地場産デューを5回実施
(5) 赤穂産の米粉を使った米粉パンを6回実施
(6) 警報発令時対応、アレルギー対応等について指導課・学校園との連絡調整の強化
(7) 子育て家庭の経済的負担軽減のために、第3子以降の学校給食費を補助

《生涯スポーツの普及・振興》

- (1) 市民の健康づくりのための市民総合体育祭や各種スポーツ大会の実施、新たな赤穂市のトレーニングプログラムの作成
(2) 忠臣蔵旗少年剣道大会や各種日協会の交流大会等を通じた北海道砂川市や熊本県山鹿市などとの友好親善都市スポーツ交流の実施
(3) 赤穂市の日のスポーツイベントや少年野球・中学野球・高校野球の親善試合などスポーツの一貫指導と健康とスポーツを機軸としたスポーツ先進都市推進事業の実施
(4) 体育協会やスポーツ少年団、スポーツクラブ21などの組織活性化と関西福祉大学・赤穂高等学校との連携・協力による団体の育成強化
(5) 赤穂シティマラソン大会等を通じて、赤穂の魅力と活気あふれる忠臣蔵のふるさと播州赤穂を全国に発信
(6) 忠臣蔵旗少年剣道大会や赤穂義士杯青少年柔道大会など広域大会の実施
(7) 安全で快適な施設の利用促進と利便性を向上するための、市民総合体育館の受変電設備の改修などのスポーツ先進都市の実現に向けた赤穂市スポーツ推進計画に掲げる施策の推進

《図書館事業の充実と適正運営》

- (1) 図書整備の充実のため図書館蔵書を計画的購入
(2) 読書活動の推進のため歴史文学講座、絵本講座、朗読講座等の実施
(3) 新着図書案内、話題の本・特集コーナー・ふるさと情報コーナー設置による図書館情報の提供
(4) 周辺地区を対象としたブック宅配サービスの利用促進のため、PRを実施
(5) 電子図書館サービスの充実のため電子書籍の計画的購入と地域資料の電子書籍化の推進
(6) 読書通帳による子ども読書活動の推進とブックスタート（絵本との出会い）事業の継続推進
(7) 播磨圏域連携中枢都市圏形成の連携協約に係る図書館相互利用の実施及び促進

《地域文化の顕彰・整備》

- (1) 赤穂城跡の二之丸石垣修理等の史跡整備の推進
(2) 伝統文化の調査・保存の推進
(3) 東有年・沖田遺跡公園復元住居屋根葺替等の文化財施設整備の推進
(4) 市民総合体育館の竣工管理
(5) 田淵氏庭園・有年家長屋門等の指定文化財の保存・整備の推進
(6) 文化財資料のデジタル化・重要遺物レプリカ制作等による文化財資料の充実整備
(7) 「文化財をたずねて」等の刊行、文化財説明標柱等整備による保存顕彰の推進
(8) ホームページによる情報発信、文化財保護連絡員活動による普及啓発等を毎月実施
(9) 赤穂城跡、有年遺跡公園、旧坂越浦会所の施設管理と公開実施
(10) 有年考古館における特別展・講演会等の実施
(11) 「図説赤穂市史」の編集・市史史料集シリーズの編集・発行による市史等編纂事業の推進
(12) 忠臣蔵浮世絵データベースの活用促進

《施設・設備の充実 生涯学習の充実》

- (1) 全小中学校の普通教室及びその他教室の一部に空調設備を導入
(2) 小中学校の安全対策を図るために施設整備を実施（プール改修、体育館床研磨改修）
(3) デジタル教材やICT機器を効果的に活用した情報教育の推進
(4) 全小学校区でアフトラースクールを実施
(5) 文化施設の施設整備と資料の収集（利用環境の快適性向上及び海洋科学館リニューアルの実施、郷土ゆかりの資料収集）
(6) 3歳児保育施設等整備の実施
(7) 市民会館関係
(8) 文化団体の支援や美術展応募者数の増加促進
(9) 市民会館施設整備の実施
(10) 公民館関係
(11) 高齢者大学の充実と市民のニーズに対応した魅力ある講座・教室の実施
(12) 公民館施設整備の実施

PDCAサイクル (plan-do-check-action)

学校園所・家庭・地域の連携協力

文化
の
創造
人
の